会 議 結 果 報 告 書

平成２９年２月１０日

会議の名称	平成２８年度第３回生活支援体制整備連絡会 地域の支え合いフォーラム「わたしたちの目指す地域像」
開 催 日 時	平成２９年２月３日（金）１５時１０分～１６時４０分
開 催 場 所	志木市役所３階会議室
出　席　者	別紙名簿のとおり　（計 27 人）
欠　席　者	別紙名簿のとおり　（計 9 人）
説明員職氏名	第１層生活支援コーディネーター　川嶋祥子　（計１人）
議　　題	１　開会 ２　生活支援体制整備活動状況報告 ３　事例紹介「地域で集える居場所」 ４　ワークショップ 「居場所を増やすためにどのように取り組むか」 グループ発表 ５　閉会
結　　果	第１層・第２層共通の課題「居場所」を地域で発展させるための取り組みについて検討した。
事務局職員	別紙名簿のとおり　（計 9 人）

審議内容の記録（審議経過、結論等）

１　開会（15:10）

２　生活支援体制整備活動状況報告（15:10～15:20）

資料№.１に基づき、第１層生活支援コーディネーターから説明。

・第１層協議体（H28 年 8 月実施）「目指す地域像」ワークショップ結果報告

どのような地域を目指すのか、市全域での活動者を中心にワークショップ。必要なサービス「居場所」「日常生活支援」「移動支援」「見守り・話し相手」解決案「社会資源整理と PR」、「住民の意識醸成」、「勉強会」、「人材養成」を集約した。

・第２層協議体（H28 年 5 月～現在）「圏域の地域課題意見交換」結果報告

各圏域で１～３回程度、その圏域での活動者を中心に地域課題の意見交換。

市内５圏域共通して「居場所」を充実させる必要性があげられている。

→第１層・第２層で共通であげられた「居場所づくり」を今回のテーマとする。第２層では、各圏域に合わせた居場所づくりと、それに必要な取り組みについて協議を重ね、具現化していく。

第１層では、各圏域だけでは解決できない共通課題の検討や、市全体に対する働きかけを協議し、実施していく。

3　事例紹介「地域で集える場所」（15:20～15:30）

資料№2 に基づき、市内で昼食作りを通じたサロン活動を行っている団体を第１層生活支援コーディネーターから紹介。

・ポイント：参加者一人一人に役割がある、参加者が歩いて来られる会場で開催されている、顔見知りになるきっかけとなり自然な見守り活動の場となっている。

・課題：高齢化で後継者がいない、男性が少ない、他の活動が地域に少ない。

4　ワークショップ「居場所を増やすためにどう取り組むか」（15:30～16:40）

資料№3 に基づき、各グループで今後の取り組み方法についてワークショップを行った。

(1) 協議体の位置づけ・役割を確認

(2) 第１層・第２層であげられた解決案をヒントに取り組み方法を検討

(3) グループ発表（別紙参照）

6　閉会（16:50）

以上

ワークショップ結果（居場所を増やすためにどうしたら良いか）

１グループ

【メンバー：町内会連合会、おんどりクラブ、いろは百歳体操、コンバート・ワン、政策推進課、高齢者あんしん相談センターせせらぎ　【計７名】

【情報 PR】

・参加方法がわからない（参加の方法を明確にする）

・PR したい

【人材】

・人が来ない

・裏方さんがほしい（人材養成）

【内容】

・いろいろな趣味の会をする

（関心事にあわせて選択ができるように、多様な趣味をいかした居場所を設ける）

【場所】

・空き家の活用

・いつでも来られる場所

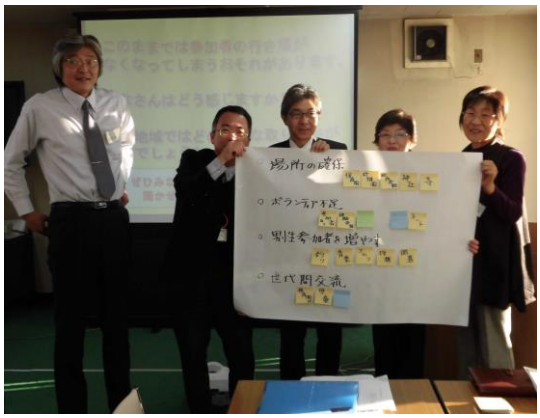
・時間によって空いている施設を活用

・公共施設の利用無料化

・学校の余裕教室の活用

２グループ

【メンバー：ふれあいサロン、サロンあざみ、シルバー人材センター、市民活動推進課、高齢者あんしん相談センターあきがせ　計５名】



【場所】

・保育園、幼稚園
・町内会館
・神社、寺　などの場を活用する

【人材】

・参加者自ら意識を持てるような働きかけ
・体験学習を取り入れる
・（学生の）長期休暇期間の活用

【内容】

・男性利用者を増やす（釣り・音楽・ゴルフ・将棋・囲碁などの多様な居場所）
・世代間交流（保育園児と、児童と、お祭りの開催）

【情報 PR】

・活動内容や場所などの PR
・インターネットの活用

３グループ

【メンバー:いきいきサロン、スペース・わ、コープみらい、たすけあい輪っはっは、健康政策課、高齢者あんしん相談センター館・幸町　計７名】

【人材】

・参加者、ボランティアが高齢化で運営する担い手が不足
　→次の世代につなげるために人を育てる（子どもを巻き込む）
・ボランティアの貸し借り
・ボランティアの初心忘れないように（やりがい・たすけあい）
　→ボランティアフォローアップ
・参加者を担い手に

【情報 PR】

・新しい人のはじめの一歩となる広報
・広報で場を知ってもらう

【連携・ネットワーク】

・各分野の連携
・関係者間のネットワーク

４グループ

【メンバー：町内会連合会、話し相手ボランティア語楽の会、たんぽぽサービス、生涯学習課、高齢者あんしん相談センター柏の杜　計８名】

【人材】

・高齢化で継続できない、新しい人たちが来ない→サポーター養成講座（いろは百歳体操など）をし続ける

・中間年齢層が少なく、若い人たちとの隙間がある→ターゲットを絞って集客を図る

【内容】

・土日祝日の開催

・親子で参加できるようなものを検討する

【情報・PR】

・回覧板・チラシではない方法を考える

・窓にかわいいディスプレイを飾ったり、のぼりを立てるなどし、中で何をしているのかをアピールする

【場所】

・町内会館だけでなく、飲食店などを活用する

５グループ

【メンバー：商工会、いろは元気サロン本町、カッピー体操、産業観光課、いろは遊学館、高齢者あんしん相談センターブロン計７名】

居場所とは【内容】

・気軽に立ち寄れる
・存在意義、活躍の機会がある
・家の人以外と出会える
・お互いに助け合う（できること・できないことをお互いにサポート）
・世代間交流
・また来たい、またやりたいと思えるもの

どんな場所があるか【場所】

・町内会館
・商業施設で買ったものを食べられる場所（スーパーのイートインコーナーなど）
・空き店舗活用
・協力店舗（飲食店・カラオケ屋・銭湯など）
　課題：交通手段、男性も参加しやすいもの

何ができるか【情報 PR・連携・ネットワーク】

・声かけ（関心のある人を増やす）
・協力店舗を増やす（商工会会員への呼びかけ）
・各機関との調整（行政各機関との連携）

※カテゴリー分類は、若干編集をしております